

都藝泥布

京都地名研究会 会報 第90号

令和8年3月28日 発行

題字「つぎねふ」(山城の枕詞)

揮毫 吉田 金彦氏 (初代会長)

編集 京都地名研究会事務局

2026年1月25日(日)に第66回地名フォーラムを龍谷大学大宮学舎東翼で開催しましたところ、56名の方(会員25名・非会員31名)にお運びいただきました。どうもありがとうございました。

今回のフォーラムはいつもと趣向を変えて、4名の理事が「上京区の歴史と町名」という共通したテーマで各自の興味・関心に基づいて短時間で報告したあと、セッションの時間を30分とって、会場の参加者からご意見とご感想をいただきました。以下にその内容をまとめましたので、ご覧ください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

発表1 上京区北縁の地名と古代寺院

発表者 中島 正 (本会 理事)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

元来、律令「僧尼令」においては、私に道場(寺院)を建てることは禁止されており、これが延暦二年(783)六月十日付け太政官符において徹底され、私寺(氏寺)の新設や既存寺院への田宅園池の施入



(中島 正氏)

を禁止する統制強化が実施された。しかも、平安京内には、東寺と西寺以外に寺院を造らないという原則が存在したのである。

現在の京都市のほぼ中央を東西にはしる道路が平安京北の京極・一条大路(一条通)であり、現在の京都御苑東側を南北にはしる寺町通がほぼ東の京極大路と重なる。この一条大路の北側(京外)には、平安京造営以前から秦氏の氏寺と考えられる北野麩寺や出雲氏の氏寺・出雲寺跡があった。

これら既存の寺院が生き残るためには、いくら京外とはいえ「定額寺」となる必要があった。これは

官大寺・国分寺・定額寺と連なる寺格であり、准官寺として律令国家より統制される対象となるのである。北野麩寺は、平安前期中は何とか命脈を保ち、出雲寺はおそらく御霊信仰と結びついて御霊寺として平安中期までは生き延びるが、境内は御霊神社へと変貌する。

平安遷都以後創建された寺院としては、藤原道長が寛仁四年(1020)に自身の土御門邸の東側(東京極大路の東側)に建立した法成寺がある。また、これも一条大路の北側(京外)であるが、現在中京区に所在する行願寺(通称革堂)の前身寺院があった。ここには、現在も革堂町・革堂中之町・革堂西町の地名が残る。古代寺院から中世寺院への変遷を見ることができる。

平安京周辺の寺院造営の様相について、上京北縁の地名を通して考えてみた。(中島 正 記)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

発表2 上京区の昔の街と河川

—市電がある風景・鴨川の付け替え?—

発表者 岩田 貢氏 (本会理事)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

発表では、上京区について歴史と地理の両面から概観することを主とした。

最初に上京区域の広がりや昔の景観が分かる地図や写真を提示した。区域は台形状で、東端を賀茂(鴨)川、中央部を堀川が南流しているのが特徴である。ま



(岩田 貢氏)

京都地名研究会への入会案内

千年の都、京都。ここを起点として近畿から国の内外に及び地名を広く細かく蒐集し、比較調査して、地名を学ぶ学会です。地名は歴史の鏡であり、文化を盛る器です。私たちの暮らしのもとにある地名に目を向けて、日本の文化と歴史認識をいっそう深め、地域の知的活性化に役立ちたいと念じます。年齢、職業などの如何を問わず、いつでも、どなたでも、地名文化に関心をもたれる方々のご参加を歓迎し、ご協力もお願いします。入会金不要。

詳細はホームページをご覧ください。

年会費	3000 円
-----	--------

賛助会員・理事	5000 円
---------	--------

家族会員	1000 円
------	--------

お問い合わせ先

京都地名研究会事務局 入江 成治

E-mail : kyotochimei@gmail.com

会費納入先 口座名 ゆうちょ銀行

加入者名 : 京都地名研究会

口座記号番号 : 00910-1-160705

本会ホームページアドレス

<https://kyotochimei.wixsite.com/kyotochimei>